

F E R I

The Future Education Research Institute

未来教育研究所紀要 第3集 抜刷

論文

高等学校における教師と生徒および保護者間での意思共有と生徒指導
の連携を円滑に行うための『学級新聞』活用法に関する研究

福田 浩三

高等学校における教師と生徒および保護者間での意思共有と生徒指導の連携を円滑に行うための『学級新聞』活用法に関する研究

兵庫県立伊川谷高等学校 福田 浩三

はじめに

学校教育を円滑に行うためには、担任教師と生徒および保護者の三者間での共通理解と連携が欠かせない。しかし高等学校の場合、義務教育期間に比べ、担任教師と保護者の関係作りとなる機会が少ない現状がある。そこで、学校内での生徒の状況を細かに保護者に伝えると共に、担任教師の学級運営に関する考えを生徒および保護者に周知してもらい、担任教師と生徒および保護者間の関係作りに役立てる目的で『学級新聞』の発行を行った。

学級通信等の類似する試みは他でも見られるが、高等学校において同様の試みを行う場合、次の様な検討課題が考えられる。

- ・配布物が保護者の手元にまで届かない。
- ・内容が連絡事項中心になってしまう。
- ・配布の間隔が頻繁でない。

そこで、本研究では『学級新聞』を可能な限り保護者の手元に届く様に、紙面の様式や内容に独自の工夫を施した編集を行った。また、掲載記事は生徒の活躍のみならず学級内で起きた問題等も前面に出し、担任教師の学級運営に対する考えや人生観を織り交ぜながら保護者に協力体制を訴える内容も積極的に取り入れた。

発行間隔は記事内容の陳腐化を防ぐ為に週間発行を基本とした。また懇談会や三者面談等で保護者に『学級新聞』の発行を宣伝する事で、生徒から保護者の手元へ可能な限り『学級新聞』が届く様に試みた。

本研究は三年間クラス替えを行わない一学級の、入学から卒業までの期間を対象に行う。平成26年10月現在、研究開始から2年半が経過し、既に発行号数は100号を越えている。2度に渡る保護者への講読アンケート調査では保護者の78%が『学級新聞』を常時講読している事が判明しており、その全員が発行および内容に対し肯定的な意見であった。また現在、担任教師の指導に対し、保護者からの大きな理解と協力が得られている。

1. 研究の目的

高校生になると、親子間の会話も少なくなり、学校や学級内の状況が保護者に伝わりにくくなる。また、学級担任と保護者の対面する機会も頻繁でないため、担任の学級運営に対する考え等が保護者に伝わりにくく、両者の連携した生徒育成が行われにくい現状がある。

そこで『学級担任と生徒および保護者の三者間での良好な人間関係作り』を行う為、

- ・担任の考えや人間性、人生観を明確に生徒および保護者に伝える。
- ・担任と生徒および保護者間の頻繁な情報共有手段を構築する。

- ・学校や学級内での出来事に対し、保護者に興味関心を持ってもらう。
- 事を目的として『学級新聞』の発行を行った。

2. 『学級新聞』について

学年通信や学級通信等、同様の試みは過去にも例があるが、これらとの差別化を図り、より情報伝達効果を高めるために、以下の事を行った。

- ・紙面レイアウトを一般新聞紙に模する事で強いインパクトを与える。
(生徒が保護者に積極的に見せたいくなる様な、奇抜な紙面作りを行う)
- ・週一回の発行を基本とし、最新情報の即時伝達を行う。
- ・生徒の学級内での活躍のみならず失敗談や問題行動も含め、学級および生徒間で起こっている実情を伝える。
(このためタイトルを『学級通信』ではなく『学級新聞』としている)
- ・連載記事を複数設ける事で、興味ある記事から『学級新聞』を講読できる様にする。
(これにより、学級内で生じた数々の問題やその結末と、担任の学級運営に対する考えを様々な角度から生徒および保護者へ伝える事が可能となり、教師と生徒および保護者との協力体制を構築するきっかけとなった。)
- ・各学年間においての連帯感を持たせるため、記事の対象となる学級以外に、関連する他学年の記事も積極的に掲載する。

2-1. 対象学級

本研究の対象となる学級は、兵庫県立明石西高等学校 37 回生教育類型（特色選抜試験による入学者 40 名を 3 年間クラス替えを行わずに同一学級として学級運営を行う）一学級とし、この学級の入学から卒業までの 3 年間を通じて行う。

『学級新聞』の配布先は、対象学級の生徒のみに限定せず、職員室・事務室・講師室等の全教職員を対象とし、『教育類型』の特色を職員全員で共有すると共に、生徒の状況等が伝わりにくい事務職員や非常勤講師との連携した生徒指導の円滑化を図った。

更に、学年を越えた『教育類型』の連携を模索するため、対象学級の前後学年となる 36・38 回生『教育類型』の生徒にも『学級新聞』の配布を行った。

2-2. 制作方法

『学級新聞』は B4 用紙 1 枚の両面刷りとし、制作は研究担当者（学級担任）が行う。使用ソフトウェアは、将来の OS やソフトウェアのバージョンアップへの対応を考慮し、新聞作成専用ソフトは使用せず、教育現場で普及している国産ワープロソフト（一太郎：(株)ジャストシステム）を利用した。

また、記事収集の為にデジタルカメラ・ボイスレコーダー・メモ用紙等を常時携帯し、記事内容となる出来事の即時記録に対応した。

2-3. 紙面内容

『学級新聞』の紙面内容は、以下の 7 点を中心に、各号ごとに伝達記事や小コラムを掲載して、読者の『気になる記事』から読み入られる様に工夫をした。

- ・ トップ記事
- ・ 天性人語
- ・ 8組あれこれ
- ・ 声
- ・ 短期集中連載
- ・ 四コママンガ
- ・ 広告欄

発行初期は白黒配布であったため、基本的に文字中心の紙面作りであったが、掲載写真に対する生徒の関心が高かったことやカラー版の教室掲示開始に伴い、誌面に対する写真の割合を増やした。また、記事内容も当初は生徒向け中心であったが、保護者からの反響が予想以上に高かったことから、保護者向け記事の充実も図った。

生徒の表彰や行事等の様子に関する記事では関係生徒の氏名を実名掲載したが、それ以外の記事（特に8組あれこれ）では、氏名はイニシャル掲載とした。

誌面構成例を図1（P64）、図2（P65）に示す。

3. 研究実践について

本研究の実施期間は三年間とし、計108号の『学級新聞』発行を予定している。現在は研究実施3年目となる。当初計画していた『学級新聞』本紙以外に、号外や冊子等が別途制作されている。本紙については、先の配布対象者以外の学校関係者も自由に閲覧可能とする為、職員室および教室の廊下にカラー版の掲示を行った。

3-1. 新聞本紙

研究開始1年目に計36号、2年目に計41号の発行を行い、3年目となる現在、通算100号を越える発行を行っている。B4用紙二面で構成され、発行当初は白黒印刷で配布を行っていたため写真も少なく、文面も新聞に即した堅苦しいものであった。しかし、号を重ねる毎に柔らかい文面となり、掲載写真の誌面に対する割合も増していった。67号からは生徒に対しカラー版の配布が行える状況となったため、誌面がより見易くなり、校内での生徒の状況がより判りやすくなったと好評であった。

3-2. 号外

年賀状・暑中見舞として、新聞本紙の紙面レイアウトをそのままに、ハガキサイズに内容をまとめた『学級新聞号外』を対象生徒全員の自宅に計4号発送している（図3参照）。



図3 号外(ハガキ版)



図1 学級新聞89号一面(表面)

トップ記事

トピックスとして学校や学級内の週間行事や出来事を伝える。

四コマ漫画

担任自らが描く四コママンガである。マスコットキャラクター『まくら君』の活躍を描く。(『まくら君』は生徒指導ポスター等、学級内だけでなく学年内の様々な広報活動の展開にも利用している。)

天性人語

様々な事柄に対する学級担任の自論を述べる欄で、間接的に学級担任の人間性を伝える。朝日新聞の「天声人語」をもっている。

広告欄

一般新聞の広告欄を模した形式で作成された、『学級新聞』を注目させるために設けた欄である。担任の発想や趣味が色濃く反映されており、『学級新聞』を読む事が毎回の楽しみとなる様に工夫がされている。



図2 学級新聞89号二面（裏面）

声
学級生徒の目標・卒業生からの言葉・講演会の感想・実習報告など内容は様々であるが、できるだけ学級生徒全員の言葉や活動内容、写真等を載せる工夫を行う。

8組あれこれ
教室での個人やグループの些細な出来事を、良き内容悪き内容に関係なく伝える。個人については個人名の代わりにイニシャルを用いて掲載する。失敗談や注意すべき内容も、楽しく読める表現方法を取り入れて伝えている。（三者面談後には、保護者とのやり取りを伝えた「保護者あれこれ」を単発掲載している。）

短期集中連載

学級担任の過去の経験談を元に、一般的にはなかなか踏み込めない内容についても辛口で切り込んだ記事を掲載する。実社会で必要となる知識や考えなどを盛り込んだ話を中心としている。現在までに掲載された連載は、「過去の仕事を振り返って（全7回）」、「私の思い出の大学より（全5回）」、「教師への試練（全8回）」、「学校再生への道（全8回）」、「担任の叫び（連載中）」、「入試に向けてシリーズ（連載中）」である。

3-3. 修学旅行版

修学旅行先(台湾)から保護者に生徒の様子を伝えるため、『学級新聞』のタイトルを『修学旅行』と変え、内容を対象クラスのみならず学年の生徒全体に広げた紙面を作成し、旅行先から所属校に送信、ホームページ上への掲載を行った。旅行期間が4日間であったため、計4号を発行した。1, 2号については旅行中の掲載ができたが、3, 4号については旅行終了後の掲載となった。

制作に当たっては、旅行スケジュールを元にあらかじめ紙面作成を行い、現地で若干の修正を加え、当日撮影した写真と差し替える方法で、旅行先での作成の手間軽減を図った。

紙面は圧縮をかけた画像形式で送信したため、文字等に見難さが生じた。このため、後日改めて4号分をA3用紙中折四面に印刷し、対象学年の生徒全員に配布した(図4参照)。



図4 修学旅行版(A4版)

3-4. 教育類型版

学校説明会や教育類型の新入生に、教育類型の活動内容を分かりやすく説明するため、新聞本紙の中から教育類型の活動に関する記事をより集め、タイトルを『教育類型』と変えた紙面(B4用紙二面)を作成し、配布をした(図5参照)。



図5 教育類型版

3-5. 冊子版

各年度末に、年度発行分の学級新聞をA4サイズに縮小してまとめ、未使用写真や書き下ろし記事を新たに加え製本した冊子の制作を行い、学級生徒に配布をした(図6参照)。

1年目: 全82ページ 冊子タイトル《天の章》

2年目: 全98ページ 冊子タイトル《知の章》

3年目: (発行予定) 冊子タイトル《仁の章》

※『学級新聞』の66号まではモノクロ印刷での配布であったため、生徒はこの冊子で初のカラー版を手にする事となった。

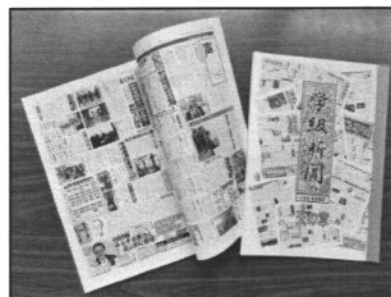


図6 冊子版(天の章・知の章)

4. 結果と考察

本研究は一学級における入学から卒業までの3年間において実践計画が成されており、現在は実践途中であるが、これまでに以下の成果が得られている。

4-1. 学級新聞発行の有効性について

『学級新聞』配布時の生徒の様子や、普段の会話、三者面談などでの保護者とのやり

取り、二度の講読アンケート、

※1回目：H24年11月、保護者40名に対し実施[調査①とする]

2回目：H26年5月、保護者39名およびその生徒に対し実施

(有効回答数35名)[調査②とする]

によって得られた『学級新聞』の有効性についてまとめたものを表1に示す。

表1 学級新聞配布の利点

- ・保護者への重要伝達事項等がより良く行える様になった。(調査①によると、「学級新聞を読まれているか」の問に対し、毎回(54%)・大体(19%)と、およそ3/4の保護者の講読が判明している。)
- ・保護者の講読により、担任の考えが保護者へ浸透すると共に、保護者が担任を身近な存在と捉えるようになり、担任と保護者間の連携が行いやすくなった。(調査②では、「学級新聞によって、担任に親近感がわきましたか」の問に対し、[とてもわいた(57%)・少しわいた(37%)]などの結果が保護者から得られている。)
- ・発行された『学級新聞』を全てストックする保護者および教員が複数存在する。(調査②によると、「毎回保存(71%)・気になる号だけ保存(15%)」また、保存をしていない保護者も、その理由として年度末に保存版冊子が貰える為、などをあげており、『学級新聞』の価値が高く評価されている。)
- ・普段なかなか声かけのできない生徒に対しても、間接的に担任の言葉を伝える事が可能となった。
- ・学校評議委員会や職員OB会等の各種集まりで『学級新聞』配布を行う事により、学校や校内生徒のより実態に即した活動状況を紹介する事ができた。
- ・1つの学級の3年間に渡る詳細な活動記録を残す事となる。
- ・教育類型の学年間をまたぐ連帯感が生じつつある。
- ・『学級新聞』に様々な表現方法を取り入れる事で、教育場面毎のより効果的な伝達表現方法の検証を行う事ができた。
- ・『学級新聞』の制作の為、担任教師の生徒に対する注意関心がより高まった。
- ・生徒自身は元より保護者の方がより『学級新聞』を隅々まで読み、内容に理解を示してくれた。また、講読層は生徒の兄弟祖父母にまで広がっていた。
- ・『教育類型版』が「写真が豊富で活動内容が分かりやすい」と、学校紹介に参加した中学生に好評であった。
- ・『修学旅行編』を旅行期間、随時ホームページ上へ掲載した事が保護者に好評であった。
- ・『学級新聞』のカラー配布に伴い、生徒の写真が見易くなり、生徒・保護者共に喜ばれた。
- ・研究実施学級の教室窓(廊下側)に『学級新聞』を逐次掲載する事で、教室前に足を止め、熱心に記事を読む他学級の生徒が現れた。
- ・文化祭時に一教室を展示教室として『学級新聞』の1号から最新号までの掲示を行う事により、学年を問わず、多数の生徒保護者が教室に詰め寄り、順を追って教育類型の活動内容や、そこに关わる生徒の様子についての記事を熱心に読んでいた(図7参照)。



図7 学級新聞の展示

4-2. 学級新聞発行の問題点について

本研究の実施に伴い判明した問題点を表2に示す。

表2 学級新聞配布の問題点

- ・制作に時間がかかる（発行1回につき12時間程度の時間を要する）。
- ・担任の言葉が文字として誌面に残るため、掲載内容に細心の注意が必要となる。
- ・写真を多数載せるため、肖像権や個人情報に関する問題を考慮した上で配布先を決定する必要がある（配布先、配布方法等については、三者面談時に学級生徒全員の保護者に対し口頭にて承諾を得た）。
- ・印刷費等がかかる（年度末に発行した『学級新聞』をまとめた冊子はカラー版であったため、用紙代やトナー代、プリンタの維持管理費などの費用がかかった）。
- ・対象生徒が高校生という年齢のため、写真に写りたがらない、または記事に載りたがらない生徒も存在し、写真や記事の掲載時に注意が必要となる（掲載生徒に若干の偏りが生じる理由は保護者には説明済みである）。ただし、同じ生徒であっても、場面により写真に写りたい、写りたくないなどの変化があり、これは生徒と担任の、その時々の関係の良好性を示す一つの指針になるという利点にも繋がった。

4-3. 以後の研究予定について

今後の研究予定を表3に示す。

表3 今後の研究予定

- ・前述の問題点の改善策を検討する。
- ・3年間で発行した『学級新聞』の最終年度分をクラス史の最終章《仁の章》として、学級生徒に配布する。
- ・前述のクラス史三章とは別に、3年間の総まとめとなる別冊子を制作する。
- ・早期に進路決定をした学級生徒を中心に文集委員を募り、生徒主体で『学級文集』制作を行う。

5. 成果とまとめ

本研究では、高等学校において教師と生徒および保護者間での意思共有と生徒指導の連携を円滑に行うために『学級新聞』の活用を試みた。タイトルに『通信』ではなく『新聞』を用いる事で、生徒の失敗談やクラスで起きた問題も違和感ない積極的な掲載が可能となった。この事により、『学級新聞』が保護者への一方向連絡とならず、学級懇談会や三者面談等、様々な機会で開催と保護者が双方向に意見を出し合い、共にクラス運営を考える機会が増えた。

『学級新聞』では、学級に関わる人達の意思共有を主眼に置く為、その作成はすべて担任が行った。しかし、今後の予定として、3年間学級新聞と関わった生徒達にどれだけ表現力や想像力、文章力などを身に付けたかを図るため、生徒の手による『学級文集』

の企画、作成を行う予定である。

最後に、表4に調査②の自由記述欄に記述を頂いた保護者感想（一部抜粋）を示す。

表4 保護者感想

- 本人から学校のこと、クラスのことを話すことがないので、新聞を読んで知ることが多いです。集合写真などは、虫めがねで見て、どこにいるか探したりもします。
- 普段からよく会話しているので、量は変わらないが、会話の内容として学級新聞の記事の割合が増えました。これからも楽しい新聞を期待しています。
- 高校生活を私もいっしょに楽しんでいる気分になれますし、クラスの事も良く分かり、助かります。何かお手伝い出来る事はないかな…と考えています。猫の手程にしかありませんが必要な時はお声をかけて下さい。
- 新聞のおかげで、クラスの様子がよく分かる…と言うより私たち親が、8組の一員であるかのように感じています。子どもたちの顔と名前もわかるので、新聞を読んでも楽しさ倍増!!浩三先生の人柄も子どもたちへの思いも伝わり、感動し、感謝しています。
- 学級新聞を読ませていただくと、子供達の様子や先生がどれだけ生徒の事をかわいがってくれているのかとか、クラスが先生を中心にまとまっているのが伝わって来ます。先生が生徒を思い、生徒が先生を思っているとってもいいクラスだなあと感心します。
- 毎回、楽しみにしております。クラスの様子、学校行事でのあれこれほのぼのとしたクラスの雰囲気伝わり、先生の一生懸命がすごく良くわかります。
- いつも学級新聞ありがとうございます。学校へ行ってしまうと子供から話をしてくれない限り学校でのことはわかりませんが、新聞があることで様子がすごくわかり楽しく読ませていただいています。またカラーになると写真がよくわかってより見るのが楽しいです。
- いつも楽しくよませていただいています。娘の学校の様子もしれてたのしいです。
- いつも楽しく拝見させて頂いています。子どもから冊子になった学級新聞を受け取り、改めて8組の成長を感じています。あと1年、全力で頑張ってください!!!（先生も生徒もね!）

研究にご協力頂きました、前任校である兵庫県立明石西高等学校の皆様方に感謝致します。

<資料①>

〔調査①〕（H24年11月、保護者40名に対し実施したアンケート結果）

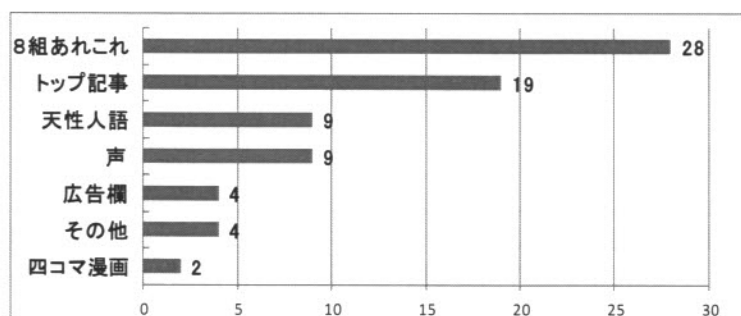
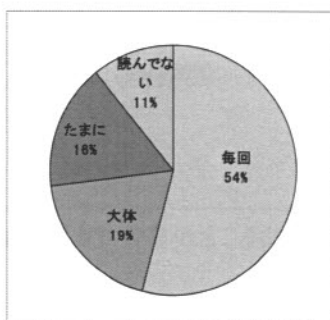
【1】学級新聞を読まれていますか？

ア. 毎回読んでいる イ. 大体読んでいる ウ. たまに読んでいる エ. 読んでいない

【2】【1】でア～ウに○をされた方をお願いします。

楽しみにされている記事に○をつけて下さい。

ア. トップ記事 イ. 天性人語（最大3つ） ウ. 四コマ漫画 エ. 広告欄
オ. 声 カ. 8組あれこれ キ. その他（ ）

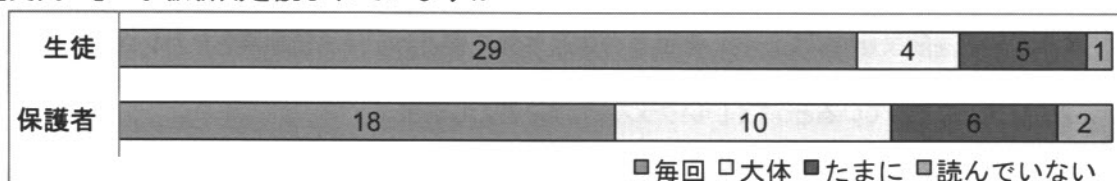


【1】学級新聞を読まれていますか？ 【2】楽しみにされている記事に○をつけて下さい。

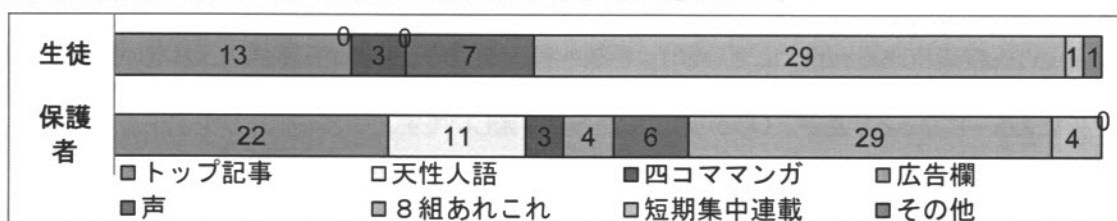
<資料②>

【調査②】（H26年5月、保護者39名およびその生徒に対し実施したアンケート結果）
※未回収および未記入の項目に関しては集計を行っていない。数値は人数を示す。

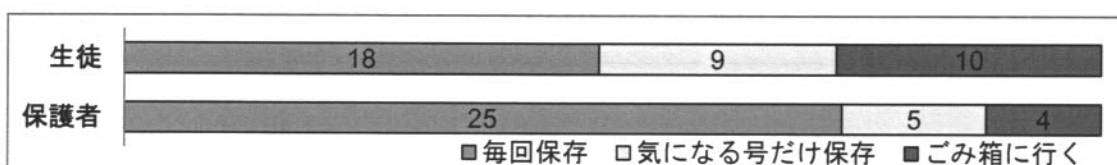
【質問1】：学級新聞を読まれていますか



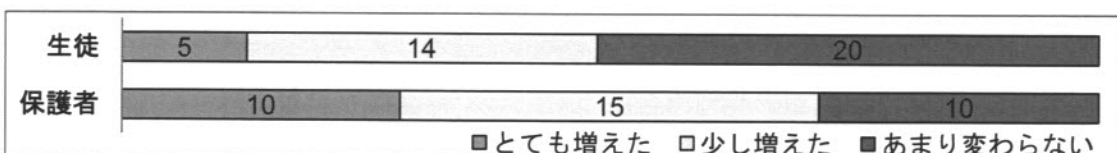
【質問2】楽しみにしている記事に○を付けて下さい(最大3つ)



【質問3】学級新聞のその後について



【質問4】：学級新聞によって、親子の会話が増えたと感じますか



【質問5】学級新聞によって、担任に親近感がわきましたか

